

# FOCUS -より良い医療の実現に向かって-

## 血液内科をはじめ地域に良質な医療を

### 医療法人順正会 横浜鶴ヶ峰病院



神奈川県横浜市 医療法人順正会 横浜鶴ヶ峰病院 院長

石山 泰二郎 先生

神奈川県横浜市の北西部に位置する横浜鶴ヶ峰病院は1982年に開設されました。創設者である現理事長の島田畯介先生が順天堂大学出身であることから、「名医たらずとも良医たれ」という同大の基本精神にのっとった考え方で運営されています。高齢化が進むこの地域で良質な医療を追求し続ける同院の取り組みについて、院長の石山泰二郎先生にお話を伺いました。

#### | 血液内科の需要に応える

横浜市旭区、瀬谷区、保土ヶ谷区は同市の中でも高齢化率が高い地区で、そこを診療圏とする横浜鶴ヶ峰病院の外来患者は高齢者が大半を占めています。「現在は高齢の患者さんを主な対象とし、内科、整形外科、眼科、歯科に力を入れた診療体制をとっています」と石山先生は話します。

石山先生は昭和大学医学部と順天堂大学医学部にそれぞれ約10年ずつ在籍した後、1998年に横浜鶴ヶ峰病院に入職し、2012年に院長に就任しました。専門は血液内科ですが、赴任した当時の同院には血液内科がなかったことから循環器内科への転科を決意し、横浜労災病院の循環器内科へ4ヶ月ほど勉強に通いました。ところが、その病院から血液内科の患者さんが横浜鶴ヶ峰病院に紹介されるようになってから状況が変わりました。他の病院からの紹介患者も増加し、血液内科の専門医として腕を振るうことができるようになつたと言います。「血液内科の診療は高い技術が必要で、感染症等のリスクも高いことから、10年以上の経験を積まなければ自信を持って対応できません。当時の神奈川県では血液内科の患者さんを受け入れる病院は限られ、私のように大学病院で20年以上にわたって多くの患者さんを診療した経験を持つ医師は希少な存在だったのです」。

最近は、血液内科の患者さんを受け入れる病院が増えたことで同院の紹介患者数は減っていますが、それでも現在年間30名以上を受け入れ、入院患者は常時10名を超えていました。地域に血液内科の専門医の絶対数が少ないことから、DPCを導入している大規模病院からの長期入院を要する患者さんが多く送られてくる傾向にあります。



■ 血液内科（急性白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、骨髄異形成症候群等）の患者さんの感染症リスクを低減するためのクリーンルームが8床設置されています。

#### | 健診や医療連携に尽力

同院では健診にも力を入れています。総合健診センターにCT、MRI、胃・大腸内視鏡、骨密度測定装置、マンモグラフィ等の検査機器を備え、同院付属予防医療クリニックと合わせて年間約7万回の定期健診および人間ドックを行い、検査で見つかった疾患のフォローアップにつなげています。がんの治療に関しては、副作用の少ない免疫細胞療法を実施していることも同院の特徴です。免疫細胞療法は保険適用外の先進医療ですが、より多くの患者さんが継続して治療を受けることができるよう低コストで施行しているそうです。

地域の人たちにより良い医療を提供するため、同院は医療連携も緊密に行っています。地方独立行政法人神奈川県立病院機構 神奈川県立がんセンターをはじめ、聖マリアンナ医科大学病院および同大学横浜市西部病院、横浜市立市民病院、医療法人社団明芳会 横浜旭中央総合病院などとの高い連携実績を挙げています。例えば、神奈川県立がんセンターとは乳がんに関して密接に医療連携をとり、術後の患者さんの外来ケアを行うなどの後方支援に尽力しています。また、近隣の開業医との間では、予約の電話一本でCT検査を実施するシステムを構築して地域医療連携を進めています。

このように地域に密着した医療を提供する同院ですが、今後は患者さんの心のケアに力を注いでいきたいと考える石山先生。「地域には一人暮らしの高齢者も多いので、仏教の考え方などを通じて患者さんの“老・病・死”に深く寄り添っていきたいですね。そのためには、私を含めて一人一人の医師が患者さんをどこまで愛することができるかに尽きます」と話します。



■ 総合健診センターでは定期健診だけでなく、肺がんドック、脳ドック、胃・大腸内視鏡等も実施しています。



■ 1.5テスラのMRI。放射線技師10名中6名は胃がん検診専門技師、2名は検診マンモグラフィ撮影認定診療放射線技師です。